



中津納涼祭



8月1日(土)、中津小学校の校庭で中津納涼祭を開催、1000人以上の方が来場されました。

連日、最高気温が37度を超える酷暑の中、少しずつ準備が進められ、迎えた当日、16時半の開場とともに、誘導係の案内で順番にチケット売り場へ。17時、「TAIKO-LABうめきた」さんによる和太鼓演奏でスタート。ゲームコーナーでゲームを楽しんだり、フードコーナーでお腹を満たしたり、どこも長蛇の列で、熱気であふれていました。

日が暮れると、提灯が灯り、盆踊りが始まります。子どもからお年寄りまで、年齢も、国籍も超えて踊りの輪が次第に大きくなっていきました。お手伝いくださった地域の皆さま、専門学校の学生の皆さま、ありがとうございました。



今後の予定

地域の掲示板、ホームページで、最新情報をご確認ください。

10/24 (土) なかつハロウィンパーティー
(中津福祉会館)

11/8 (日) 中津まつり
(中津福祉会館・中央公園)

10/4 (日) おとしよりを祝う大会
(中津小学校)

12/6 (日) ビックゲーム
(中津小学校)

1/23 (土) おやこカフェ
(中津福祉会館)

11/28 (土) おやこカフェ
(中津福祉会館)

3/13 (土) おやこカフェ
(中津福祉会館)

毎週 土曜 カフェ・コンパレ
(中津福祉会館)

2/7 (日) もちつき大会
(中津福祉会館)

毎月 第3土曜日 中津寄席
(中津福祉会館)



中津の防災



総合防災訓練

6月7日(日)、中津地域活動協議会主催で、総合防災訓練が中津小学校と大阪YMCAインターナショナルスクールの2カ所で同時刻に行われました。



《中津小学校 中津1丁目〜4丁目にお住まいの方の指定避難所》
朝9時に運営スタッフが中津小学校グラウンドに集合し、避難所開設訓練を行いました。まずは運営スタッフの任務分担を行い、校内の安全点検。さらに避難所用品を確認して、学校の公衆電話回線を用いた電話開設・確認を行うなど受け入れ態勢を整えました。
10時には中津小学校体育館に中津1丁目〜4丁目までの方が、町会名の書かれたブラカードの前に集合。町会を中心に105人の参加がありました。



10時からは避難所受付訓練を開始。消防署からのお話のあと、3グループに分かれてそれぞれ地活のスタッフが先導し、仮設トイレ組み立て、車椅子体験、心臓マッサージ・AED使用を体験しました。今回の防災訓練では初の試みとして、地活女性役員が「防災ちょこっとお役立ちコーナー」を企画しました。新聞スリッパ、ペットボトルランタン、防災ポーチ、防災クイズを準備し、参加者のみなさんに紹介したり質問に答えたりして、防災を考えるきっかけ作りとしました。警察や自衛隊の展示も。

とても暑くなか体育館での開催となりましたが、有意義な訓練となりました。



《大阪YMCAインターナショナルスクール 中津5丁目〜7丁目にお住まいの方の指定避難所》
当日はあいにくの雨となり、屋外で予定していた「煙体験」などは中止となりましたが、その代わりに体育館でのプログラムを充実させ、実践的な体験を行いました。

体育館では、大阪市北区の全避難所に配備されている災害用トイレ「ドント・コイ」の組み立てをはじめ、様々な種類の簡易トイレ体験やVR体験などを実施しました。

また、避難所が開設された際に実際に過ごすことになるテントの広さを体感したり、毛布1枚と丈夫な棒2本で簡易担架を作って乗ってみたりと、参加者の皆様は熱心に取り組んでおられました。

展示コーナーでは、江崎グリコ株式会社様にご協力いただいた防災食の展示に加え、防災士の山田まりこさんから、日頃から準備できる防災グッズの紹介や災害時に役立つ工夫についてのお話がありました。

参加者の皆様へ体拭きウェットタオルや軍手などの防災グッズをプレゼントしました。

今回の訓練は、雨天という状況が大きな学びを生みました。災害はいつ、どのような天候で起こるか分かりません。梅雨時期の蒸し暑い中、空調なしでの避難環境を体感できただけでなく、雨天時における避難者の誘導方法や受付の配置などを実践的に考えることができました。

また、実際に機材を触ることで、テントの組み立て方が分かりにくいものや、設営に力が必要なものがあることも判明しました。マニュアルの整備や資機材の配置など、今後の課題を洗い出せたことは大きな収穫です。

主催の中津地域活動協議会をはじめ、ご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

運営に協力した私たち中津南自主防災会でも、いざという時に備え、今回の訓練で得た教訓を地域の防災力向上に生かしてまいります。

浜五振興町会 防災の取り組み

浜五振興町会では、町会基金の活用について役員会で協議し、平成20年度決算総会にて防災袋購入を提案し承認を得ました。

翌平成21年には、防災袋24点セットと携帯トイレを購入し、各家庭へ配布しました。平成25年には中津地域活動協議会が発足し、中津総合防災訓練の計画・実施に協力するとともに、訓練後には反省会を兼ねた防災教室を開催し、地域の防災意識向上に努めてきました。

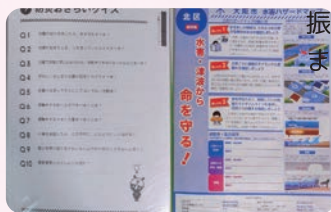
平成26年には大阪市阿倍野防災センター、平成27年には阿波座津波・高潮ステーションで防災体験を行い、地震災害の危険性を学びました。

配布した防災袋の中身を確認し、備品の消費期限前交換や必要物資の検討も継続しています。

ライフライン停止時の在宅避難に備え、カセットコンロ、乾電池式モバイルバッテリー、長期保存水、携帯トイレ、厚手ゴミ袋、ネコ砂、食料の備蓄を推奨しています。避難所生活に備え、寝袋や簡易トイレの準備も進めています。また、家具の固定や風水害への備え、避難情報・ハザードマップの確認など、家庭でできる安全対策の周知にも取り組んでいます。

近年、大阪は大きな災害が少ないものの、他府県では災害が多発しており危機感が高まっています。町会では毎年、中津総合防災訓練後に防災教室を開催し、皆さまの参加をお待ちしています。詳細は浜五興町会掲示板にてご案内します。(町会長 山脇重信)

写真は、防災教室で配布された資料集から。多くの資料が1冊のファイルにまとめられています。



中津地域 将棋・五目並べ大会

7月26日(日)、将棋・五目並べ大会が開催されました。昨年までは中津連合振興町会主催でしたが、町会員以外の方も広く参加していただけるよう今回から社協主催となりました。

今回の参加は将棋8人、五目並べ10人でした。それぞれトーナメント制で、熱い闘いが繰り広げられました。第1回の優勝者は、将棋 喜田勝さん、五目並べ 上村早人さんでした。(主催:中津地域社会福祉協議会)

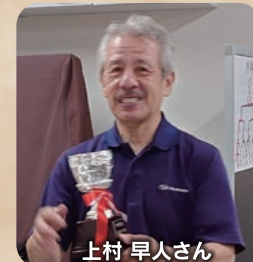


たいへんうれしいです。コンパレにも顔を出して行きたいです。



喜田 勝さん

挑戦者求む!



上村 早人さん

子ども体験教室 モジャ博士のサイエンス体験

6月14日(日)、今回は「モジャ博士のサイエンス体験」を開催しました。59名の参加がありました。

まず初めに皿回し体験をしました。割れないお皿なので、落としても安心。みんな思う存分練習していました。早い子は15分もすれば上手に回し、少し上級編にも挑戦していました。中には苦戦する子もいましたがみんな何度も練習していました。



皿回し体験

紙飛行機づくりにも挑戦しました。出来上がった紙飛行機をみんなで一斉に飛ばし誰が一番遠くまで飛ばせるか!競争しました。



紙飛行機づくり

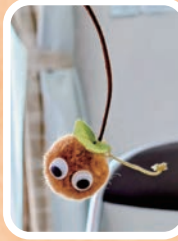


サイエンス体験

サイエンス体験では、見えない空気を見える化する空気砲を披露してくれました。風船を浮かせたり煙を出したり、子どもたちは興味津々で見っていました。

4月25日(土)

プラタナスの実で作る 不思議な不思議なもの



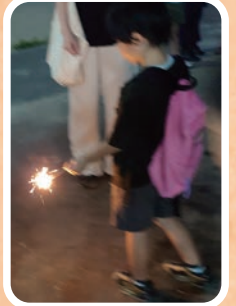
6月27日(土)

水鉄砲で水あそび



8月29日(土)

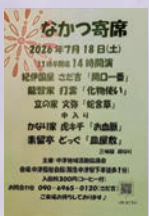
夕涼みあやこカフェ



中津寄席

毎月第3土曜日午後2時～、中津福祉会館で開かれる落語会。地域の方だけでなく、演者さんのファン、落語好きさんが他地域からもたくさんお越しになります。

300円でコーヒー付き。肩の力を抜いて笑顔になれる落語会にどうぞお立ち寄りください。(主催:中津地域活動協議会)



高齢者食事サービス ふれあいランチ

毎月第2、第4木曜日に中津福祉会館で行っています。自己負担450円で、いろいろなおかずが並ぶお弁当を食べただけです。

民生委員の絵本の読み聞かせも、楽しみにしてるよ、とお声かけいただき、毎回の選書にも気合いが入ります。

身体にも心にも栄養たっぷりのふれあいランチ。中津在住で65歳以上の方だけで昼食を取られている方はどなたでも参加できます。中津福祉会館へお問合せください。



中津はつらつ脳活性化教室

より多くの方にご参加いただけるように2部制で行ってきた脳活性化教室ですが、今年度より開催時間を10時30分から11時30分の1回のみに変更して実施しています。

コロナ禍以降、参加対象者の方の生活環境が変化し2部制での適切な実施が難しくなったため、運営するサポーターで何度も話し合いを重ねて変更する事にしました。会場のレイアウトやサポーターの配置も変え、心機一転で取り組んでいます。

これからも工夫しながら、より良い脳活性化教室にしていきたいと思っています。



ナカツニューウェーブ

～専門学校ESPエンタテインメント大阪
いわし ゆうた
岩橋 祐太先生 (音楽芸能スタッフ科)



音楽業界のプロを育成する専門学校で、ローディーと呼ばれる楽器スタッフの育成に携わり、学校の枠を超え、中津の街と学生をつなぐ活動に尽力されています。

Q: 事業の内容を教えてください。

主な活動は、音楽業界で活躍するアーティストやスタッフ、声優の育成です。私のコースでは、楽器のメンテナンスやセッティングなど、アーティストが最高のパフォーマンスを発揮できる環境を支える専門職を育成しています。技術だけでなくアーティスト第一の意識を大切に、ESP DIPLOMA CIRCUITなど地域のイベントにも参加して、実践的な経験を積む機会を設けています。



Q: 地域に関わるようになったきっかけは？

学生から、複数の会場を自由に回って音楽を楽しめるイベントをしたいという声が上がったことがきっかけです。学校がある中津への恩返しにもなると考え、地域と連携してESP DIPLOMA CIRCUITを始めました。学生にも中津の魅力を知ってもらい、地域への感謝を形にしたいという思いは、中津万博や中津まつりへの参加にもつながっています。

Q: 地域イベントに参加した感想は？

ESP DIPLOMA CIRCUITで使用する中津福祉会館は、学生にとって貴重な学びの場です。何もない空間に機材を持ち込み、ステージを作り上げる経験を通して、技術だけでなく地域の方々とつながりも学ぶことができます。地域の皆さんと直接交流することで、中津に支えていただいていることを実感し、この街で教育に携わる喜びも深まっています。

Q: 今後の展望をお聞かせください。

これからも中津への感謝を忘れず、学生と地域の皆さんが音楽を通じて交流できる場を増やしていきたいです。学生には地域との関わりを大切にする心を持って卒業してほしいですし、活動を通じて少しでも中津の盛り上げに貢献していきたいと考えています。

学校法人イーエスピー学園 専門学校 ESP

エンタテインメント大阪
世界的楽器メーカ「(株)ESP」が母体のエンタテインメント業界の中で運営される専門学校。開校35年以上の歴史がありエンタテインメント業界で活躍する多くの卒業生を輩出し続けています。グループが持つエンタテインメント業界とのネットワークを活かし、デビュー、就職を全力でバックアップします。



fromインターな子どもたち

大阪YMCAインターナショナルスクール Thirdy さん(Philippines) - Grade 12さんの文章です。
日本語訳もがんばってくれました。

Standing on a train, surrounded by people quietly going about their day, a realization suddenly struck me: I was in Japan. The silence felt unfamiliar, but not unpleasant. Back home in the Philippines, a crowded place rarely felt this quiet. Loud voices, conversations, and laughter seemed to fill every part of the place. Over time, I started to become more fond of this quietness just as much as how I was fond of the liveliness I was used to back home.

The first time I arrived, I noticed these differences through the tiniest details. On the trains, people rarely spoke loudly—even when it's full, there is a sense of stillness. At first, this silence felt strange to me. Yet, as I spent more time here, that silence became something that I truly appreciated. It gave me a different kind of comfort, one that felt different from when I was back home.

At the same time, I still truly miss the noises that I once considered ordinary in the Philippines. The loudness is what truly made the Philippines feel like home. And by being in Japan, it made me realize how much I took it for granted. Now, whenever I find myself in a quiet train, the silence no longer feels unfamiliar. Instead, it reminds me of how lucky I am to experience both the liveliness I grew up with and the quietness I have come to appreciate.

電車に立っていて、まわりの人が静かに一日を過ごしているのを見て、私は「私は日本にいます」と思いました。静かでしたが、いやな感じはしませんでした。フィリピンにいた時は、人がたくさんいる場所がこんなに静かなことはあまりありませんでした。大きな声や会話、笑い声が、どこにいても聞こえていました。日本で時間を過ごしているうちに、私はこの静かな感じが好きになりました。そして、フィリピンでなれていたにぎやかな感じも同じくらい好きでした。

日本に初めて来た時、私は小さなところからこの違いに気づきました。電車の中では、人はあまり大きな声で話しません。電車がいつぱいでも、静かな感じがあります。最初は、この静けさが少し変な感じでした。でも、日本で時間を過ごすうちに、私はこの静けさが本当に好きになりました。それは、フィリピンにいた時とはちがう安心する感じをくれました。



同時に、フィリピンで普通だと思っていた音が、今でも本当に恋しいです。そのにぎやかさが、フィリピンをふるさとのように感じさせていました。日本に来て、そのようなことをどれだけ当たり前だと思っていたかに気づきました。今は、静かな電車に乗っても、その静かさをもう知らないものだとは思いません。むしろ、育ったにぎやかさと、日本で好きになった静かさの両方を経験できて、私は幸せだと感じます。

中津の重宝さん

～日本華楽団～

中津に拠点を構えて活動をされている日本華楽団さんが、今年創設30周年を迎えました。日本華楽団は、中国楽器を演奏する楽団で、芸術総監督兼指揮者の龔林(コンリン)さん(以下、コンさん)以外は皆さん日本人という世界でも類を見ない楽団です。

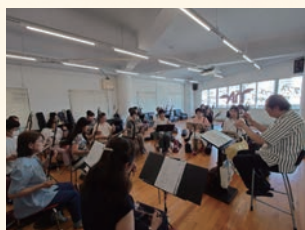
コンさんは、上海音楽学院で講師を務めた後、「日本の雅楽と邦楽」を学ぶため、平成4年(1992)、大阪大学大学院に留学、民族音楽学の博士号を取得。在学中に、中津にあった企業の社長さんとは縁がなくなり二胡を教えることに。阪神淡路大震災の翌年、愛好会を結成し、演奏会を始めます。そして、日本中に中国音楽を広めたいと、平成9年(1997)、中国楽器演奏家・愛好者を中心に「日本華楽団」が発足しました。

平成15年(2003)には、国道176号線沿いの中津ビル1階の倉庫を改装し、練習場兼コンサート会場として「オリент楽友ホール」をオープン。多い時で100人近い楽団員を擁し、定期演奏会や地方公演をはじめ、小中学校を回ったり、海外公演など、700公演を超える活動をされてきました。楽団の卒業生が日本各地で中国楽器を教えておられ、裾野も広がっています。

コロナ禍を経て、現在、団員は30名ほど。ホールも閉鎖されましたが、これまで30年、中津を拠点にいろんな場所に出向いて演奏を行ってきたので、これからは中津の皆さんに心からの感謝とともに、中津の文化交流、発展に貢献したいと話されます。

先日は、練習場近くのカフェ「囲茶菓家MAR」さんで「二胡ふれあい会」を開催。間近で聴く二胡の音色にうっとりしたり、演奏に合わせて一緒に歌ったり、実際に楽器に触れてみたり、皆さん興味深く楽しまれました。

10月4日(日)10時からの「おとしりを祝う大会」でも演奏していただきます。どなたでも参加できますので、ぜひ中津小学校講堂に足をお運びください。



編集後記

今年は熊本地震をはじめ、夏になってからは毎週どこかでレベル5クラスの降雨災害が起きるという年でした。中津はタワーマンションから長屋の建ち並ぶ木造密集市街地まであり、淀川にも面しているなど、さまざまな災害リスクを抱えたまちです。また通勤先で災害に遭うこともあります。日頃から自分がどんな災害リスクのある生活をしているのか考えておく必要があります。

今号の『る〜ぶ』では、各町会の町会長と女性部長の紹介があります。自分が住んでいる町会の会長さんと女性部長さんはご存知でしょうか？昔から中津に住んでいる方もいれば、新しく引っ越してこられた方、また仕事にいられたりお店をされている方もいらっしゃると思います。これを機会に、いざとなったら頼りになる地域の役員さんを知っていただけたらと思います。(福田 弘)

